

国際交流基金はふたつの領域への取組を強化

1. 今後の日米関係を支える人材を育成

- 米国内の知日家層及び日本語教師等の先細りが懸念される中、若手を対象とする研修事業、基盤となる専門家ポストの支援、ノンネイティブ日本語教師育成事業などを通じ、連携深化に繋がる次世代の人材育成、ネットワーク構築に注力
- 日米両政府の関心事項に即した共同研究やオピニオンリーダー間の対話を推進

2. 中西部・南部・山岳部を含む地方にアプローチ

日本との接点が比較的乏しく、日本語学習者数も少ない地域に対し、日本紹介の機会を創出するため、各地の公館・文化機関・有識者・日米協会等とのネットワーク強化を進めるとともに、文化芸術事業の地方展開や交流人材の派遣、オンライン事業を通じアウトリーチ

グラスルーツからの日米関係強化に関する国際交流基金の取組

令和7年12月 国際交流基金(JF)

1. 今後の日米関係を支える人材を育成

各分野の人材への投資、ネットワーク構築

■日米グローバル・パートナーシップ強化

- ・現トランプ政権の経済・社会政策のブレーンともいえる、オレン・キャス氏(43)を招へいた公開シンポジウム(2025.3.18)に228人が参加
- ・米国の戦略国際問題研究所(CSIS)との共催シンポジウム(2024.10.18)に元米国国務副長官のリチャード・アーミテージ氏等が登壇し、180人が参加
- ・安全保障、FOIP等の日米間の共通関心事項に関連する事業に対する助成(2024年度15件)

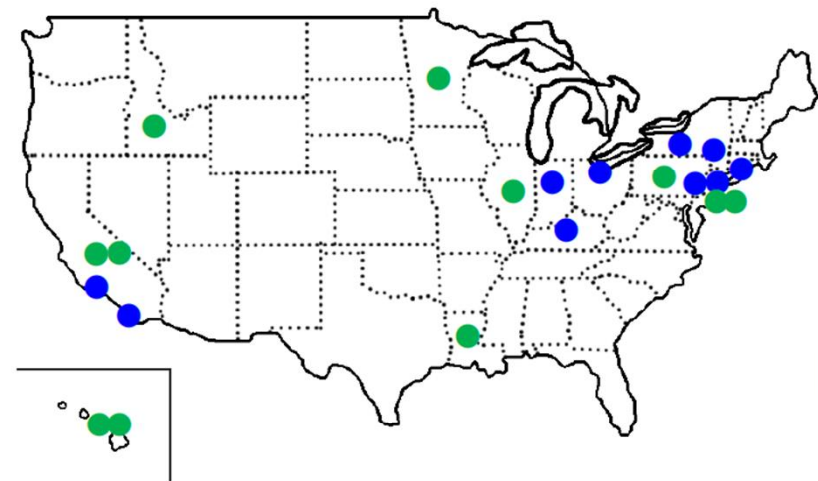


■日本研究機関(大学)への支援

- ・発信力の高い主要大学(イエール大学等)に加え、地方の大学(ルイビル大学等)やリベラルアーツカレッジにおける日本研究の基盤強化により、知日人材の持続的輩出を支援(2024年度10件●)

■米国若手日本語教員(J-LEAP)

米国の日本語教育・日本文化理解促進を目的に、米国各都市の初・中等教育機関に若手日本語教員をアシスタント・ティーチャーとして派遣(任期2年間)。実績2011年以来122名(うち現在派遣中11名●)



グラスルーツからの日米関係強化に関する国際交流基金の取組

令和7年12月 国際交流基金(JF)

2. 中西部・南部・山岳部を含む地方にアプローチ

日本との接点が少ない地域での交流機会創出

■日米草の根交流コーディネーター(JOI)

南部・中西部・山岳部における対日関心の喚起や日本理解の促進および草の根交流の担い手育成を目的に、日本人コーディネーターを2年間の任期で派遣。

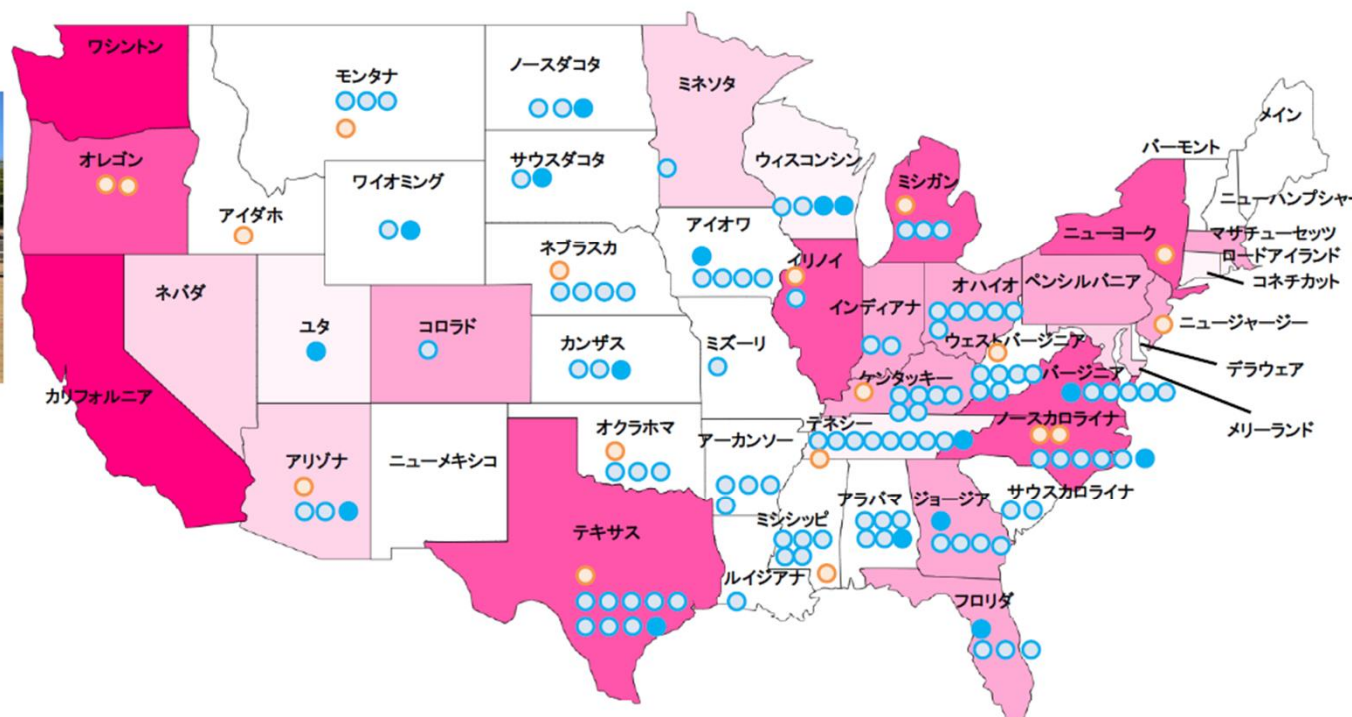
- 派遣済み: 101名(第1期[2002]～第21期[2023])
- 現在派遣中: 16名(第22期7名, 23期9名)

■NY日本文化センター映画シリーズ2024

○ 中西部を含む全米18の会場で日本映画上映を実施、1277名来場

■日米協会(JAS)及び連合会(NAJAS)の支援

連合会加盟41団体を含む全米各地の日米協会の持続的・安定的な活動のための運営費支援や実施事業を一部助成(2024年度実績8件)



日本語学習者の分布
2021年度海外日本語教育機関調査より

0 - 999

1,000 - 1,999

2,000 - 2,999

3,000 - 3,999

4,000 - 9,999

10,000 +